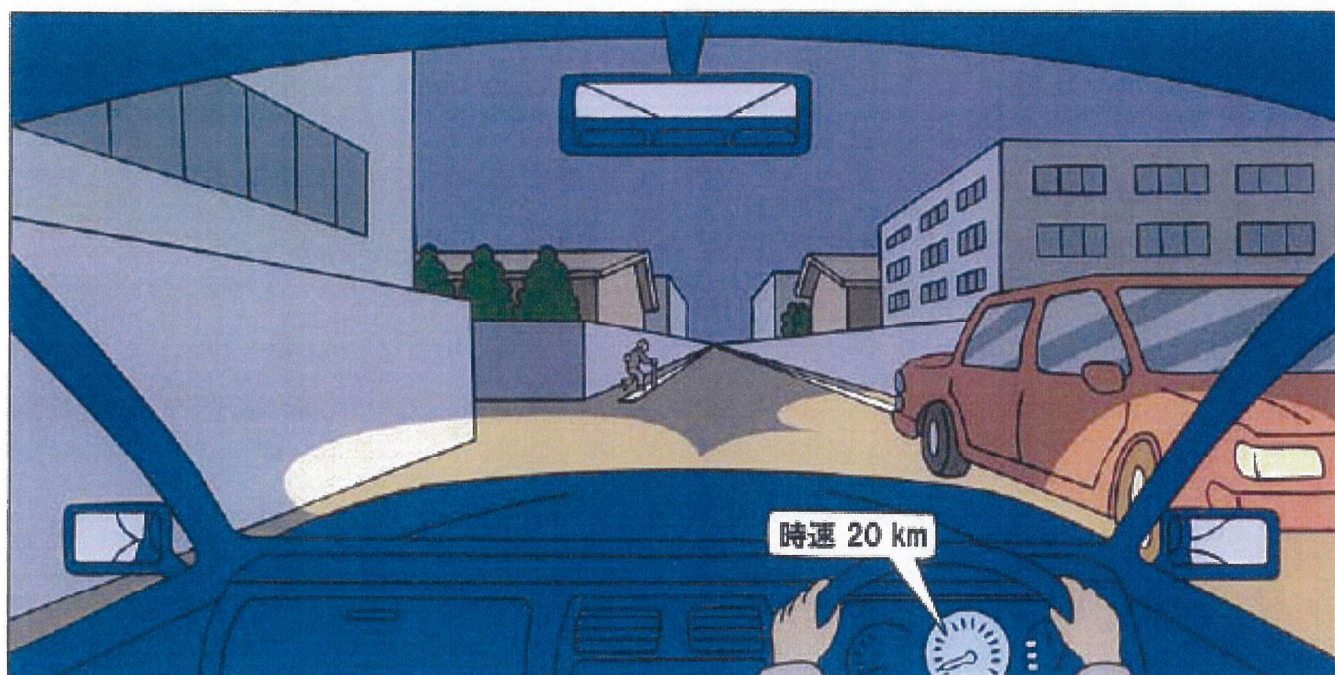


前回に引続いての危険予知トレーニングです。
今回は夜間の交差点での『危険』について考えてみましょう。

事例② 下記の状況から考えられる危険を列挙してみましょう。このページの後半部分に主な危険要因の例と、安全運転のポイントを掲載してございますが、まずは皆様でも一度考えてみて下さい。

夜間、見通しの悪い交差点に接近



【交通場面の状況等】

・制限速度：時速40キロ ・路面：乾燥 ・天候：晴 ・運転者：43歳 ・運転歴：23年

【主な危険要因】

- ①交差道路の右側にライトが見え、二輪車等の接近が想定されるが、対向車両が通過直後に二輪車等が交差点に進入してくると衝突する危険がある。
- ②交差点の前方左側に高齢の歩行者が見えるが、この歩行者が横断してくるとはねる危険がある。

など、これ以外にもいろいろと危険を想定なさったと思います。こういった危険を踏まえて下記にこの状況での安全運転のポイントをまとめてみました。

- ①見通しの悪い交差点に接近するときは、あらかじめスピードを落として進行する。
- ②夜間は交差点の路面のヘッドライトにも目を配り、ヘッドライトが見えるときには交差点から車が接近していると考えて、一時停止の標識や表示がない場合でも一時停止して安全を確認する。
- ③高齢の歩行者は車に気づかず道路を横断してくることがあるので、その動きに十分注意するとともに、高齢の歩行者が横断してきたときは、一時停止等をして通行を妨げないようにする。

このように夜間の運転は普段に増しての注意が必要だと考えます。
常に注意を怠ることなく安全運転に心掛け幸せな日々を過ごしましょう。